

避難誘導訓練

火災が発生した場合の避難方法と誘導方法を身に付ける訓練です。

事前準備

- 避難経路上の誘導灯が点灯しているか、避難経路上に障害物がないか確認します。
- 避難・誘導担当と避難役に分かれます。火災発生場所から避難経路を選定し周知します。従業員のみが利用する建物と従業員以外のお客等が利用する建物では避難誘導の重要度が異なります。

訓練手順

□避難（従業員のみ）

避難役は誘導灯を目印に避難します。火災時にはエレベーターは使用せず階段を使って避難します。

避難・誘導担当は誘導員を階段口や通路角に配置し、拡声器等を活用し落ち着いて避難誘導します。誘導員が避難する際には、逃げ遅れた人がいないことを確認し最終者は必ず防火戸を閉めて退避します。

□避難（お客様の利用あり）

避難役は誘導員の指示に従い避難します。避難・誘導担当はお客様のパニックを想定し活動します。

誘導員を階段口、通路角や避難経路に配置し非常放送設備や拡声器を活用しながら混乱が生じないように誘導します。エレベーター前にも利用を制止する誘導員を配置します。誘導員が避難する際には、逃げ遅れた者がいないことを確認し最終者は防火戸を閉めて退避します。

ポイント

- ◆ 誘導灯には、出口や階段の避難口を示す緑色の避難口誘導灯と、避難口までの経路を示す白色の通路誘導灯があります。通路誘導灯に従い避難すると最終的に階段や出口へたどり着くことができます。また、誘導灯には停電時20分点灯できるバッテリーが備え付けられています。
- ◆ 避難の最終者が閉める防火戸や防火シャッターは、炎や煙が他に広がらないようにするためのものです。熱や煙に反応して自動で閉まるものもあるため、防火戸の周辺に物を置いたり、ストッパーをかけておくと防火戸がしまらず、火災が拡大する恐れがあり注意が必要です。
- ◆ 火災時の煙に含まれる一酸化炭素はとても危険です。吸い込んでしまうと酸素不足を引き起こし、頭痛やめまい、中毒となると死に至る危険があります。避難時は煙を吸わないよう姿勢を低くハンカチやタオルで口をおおい避難しましょう。
- ◆ 避難誘導は、パニックを起こさず落ち着いて避難させることが重要です。誘導員がパニックにならないよう十分な訓練をしましょう。

比企広域消防本部

避難訓練 （避難器具・防火施設等の維持管理）

避難時には、建物に設置されている避難器具や防火施設を効果的に使用することで、より安全に避難することができます。いざという時に使用できるよう確認しましょう。

避難器具

- 避難器具は高所から地上へ安全に避難するための設備です。避難器具には「避難はしご」「避難ハッチ」「救助袋」「緩降機」など複数の種類があります。建物にどんな避難器具が設置されているか確認をしましょう。
- 避難器具は避難の最終手段です。階段が使用できる場合は階段で避難しましょう。
- 避難器具には「避難はしご」や「避難ハッチ」のように設定・操作が単純なものと、「緩降機」や「救助袋」など設定・操作が複雑なものがあります。いずれの設備も、いざという時に使用できるよう使用方法を確認しておきましょう。
- 避難器具は高所から地上へ避難するものです。避難器具の降下地点に物を置いたり、避難器具にて降りるルートに障害物がないよう日頃から確認・維持管理を行いましょう。

防火施設等

- 防火施設は「防火戸」や「防火シャッター」など火災の延焼や煙の拡散等を防止し、避難を有効に行わせることを目的としています。
- 「防火戸」や「防火シャッター」には熱や煙に反応して自動で閉まるものもあるため、防火戸の周辺に物を置いたり、シャッターの降下位置に物が置いてあると閉鎖障害となり、火災が拡大する恐れがあるため注意が必要です。
- 誘導灯の設置されている避難通路や階段は、火災が発生した場合に速やかに避難するための避難経路となります。日頃から避難経路に物品が存置されないよう注意しましょう。普段使用しないような通路や階段については特に注意が必要です。
- 建物に設置してある排煙設備を活用することで、内部の煙を排出することができ避難を容易にすることができます。

比企広域消防本部